



ながさか さおり
長坂 沙織さん

ヴァイオリニスト

プロフィール

生路地区出身の国際的ヴァイオリニスト。国内外の数々のコンクールで入賞し、ドイツのプロオーケストラにも所属。演奏代理店や音楽教室など、昨年までドイツを拠点に13年活動した。自身のYouTubeチャンネルでヴァイオリンの魅力を発信中！



コンサート旅行にてソリストを務める長坂さん

今年4月に開催された於大まつり。サテライト会場であるイオンモール東浦に、弦楽器の美しい音色が響き渡った。奏者の中には長坂さんの姿があった。

ヴァイオリンを始めたのは2歳半のとき。音楽の先生だった母親が「将来、何か身につけられるものを」と考えたことがきっかけだった。「幼い頃はヴァイオリンの練習より、外で遊ぶ方が好きでした」と振り返る。レッスンの直前に慌てて練習をして通うような日々で、音楽の道へ進むことは当時想像していなかった。

中学生の時、東京の名門・桐朋学園の先生に出会い、本格的に音楽の道

を志すようになった。桐朋学園に入ると、周りには高校1年生ながらも国際コンクールで賞を獲得するような生徒たちばかり。周囲のレベルの高さに驚愕し、そこからは周りに置いて行かれないよう、人が変わったように必死に練習に取り組んだ。

高校入学から大学卒業までは「奈落の底のよう」で、暗黒の7年間でした」と表現するほど厳しい時期だった。本番の舞台はいつも1発勝負。練習をどれだけ重ねても結果として現れない。失敗を重ね、舞台上に立つのが怖いと感じたときもあった。「でもそこで逃げずに踏ん張ったあの時間が、自分を一番成長させましたね」と話す。練習する中で特に大切にしたのは、どんな状況でも最低限自分の演奏ができるよう基礎を積み重ねることだった。この努力は、ドイツのケルン音楽大学大学院の卒業試験で「満場一致の最高得点」という結果として現れた。



大学院卒業後は、オーケストラに所属するなど、ヴァイオリニストとして活動。また、夫とともに演奏代理店を設立し、企業のパーティーなど、さまざまなイベントを演奏して回った。どんな規模のイベントでも質を落とさないといい覚悟をもって演奏してきた長坂さん。「演奏を聴いてくれる人が楽しんでるのがこちらも楽しい」と全力で演奏するやりがい話を話した。

最後に「何かでつまづいても、他にできることを持っているだけで自信につながります。保護者の方には、勉強以外の、芸術やスポーツなど何でもよいので、子どもに身に付ける機会を与えてあげてほしいです」と自身の歩みを振り返りながら、メッセージを送った。